



日本人はラーメン好き 世界の食文化を楽しむ

大学を卒業した昭和37年、ラーメンは一杯54円だったという記憶がある。

昭和38年、日清製粉がインスタントラーメンの販売を始める。

「インスタントラーメン」発祥の地・日本。横浜にはラーメン博物館がある。売上げは年間56億個。一人当たり年間利用率は毎週1回食べることになる。

今では各地にご当地ラーメンがつくられ、そのめんも色々あり、それを想像するの面白い。イタリアのめん、スパゲッティは手づかみで食べたいというからちよつと信じられない。そのスパゲッティとチーズやバターを食べたとある。

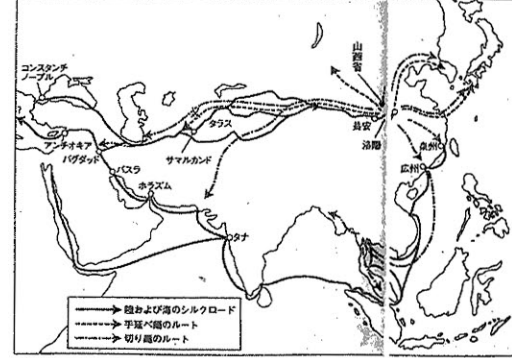


コンビニで買った「博多とんこつラーメン」と昔前に比べてめん製

られない。

世界の歴史の中で、色々な文化はシルクロードを通じて東に、西に伝わった。自宅の「世界地図から、食歴史を読む方法(河出書房社)」の中にめんロードが紹介されている。

シルクロードの取組み図



源は東アジアでも各地に伝播していったのか、ということを確認する確かなものは、現在のところ見出せていない。なお、東南アジアにおける麺食の風習は、過去二〇〇年余り前に進出した華僑の歴史にもなったものである。いつか、古くから知られてきたのが、イタリアのパスタ類と中国の麺類との因果関係だ。なかでも、スパゲッティやマカロニのような細長い加工されたパスタ類が、イタリアのオリジナルかそれとも中国の麺を源流とするのか、この点については議論入り混じりである。元朝のフビライに仕えた旅行家マルコ・ポーロが、一二九五年に中国からペネチアに製麺法の技術を持ち帰ったというのだ。いかにももつとも聞こえるが、一人の人間がたつた一度の機会に遠隔地の食文化を持ちこみ、それが広範囲に定着する可能性はほとんどないと思えるべきだろう。事実、ポーロの旅行記の二七九年、顧客の財産目録を作成したシエナバの公証人の文書には「マカロニが一杯つめこまれた箱」との記録が残されているほどだから、この点一つとっても、ポーロ伝来説はひっくり返ることになる。

めんシルクロード

ふと当時はどんな服装だったのかと想像する。人間にとつて食文化は大切なものだが、これに宗教がからむと複雑な話になる。イスラム教とユダヤ教は豚肉を食べない。日本で豚骨ラーメンにチャーシューをのせて食べないなどはあり得ない。食文化に宗教をからませないで、おおらかに食生活を楽しみたいと思うのは、私だけだろうか。

品を食べることが多くなつたのは間違いない。今週2回デイサービスに通っているが、ほとんどの人はめん製品を楽しみにしている。若い頃、スペインの神

父様にかわいがられ、スペイン特産のパエリアや、スペイン産オムレツのトルテアをよくご馳

一般家庭でも簡単に手に入る各種ラーメン

